

## 施設見学会報告書

1 日 時 平成 29 年 1 月 11 日（水） 午前 10 時～午後 5 時 30 分

2 見学施設 新日鐵住金株式会社 君津製鐵所  
千葉県君津市君津 1 番地

3 見学の目的

日頃より、区民の皆様分別排出していただいている容器包装プラスチックが、どのように再資源化されているのか、資源化設備等を実際に見学していただき、より一層、練馬区の清掃事業にご理解を深めていただくことを目的とする。

4 到着までの車中にて

見学先の新日鐵住金に到着するまでの車中では、練馬区容器包装プラスチック資源化事業について説明後、DVDにて、容器包装リサイクル法との関係やベール品質検査の様子などを見て、知識を深めました。

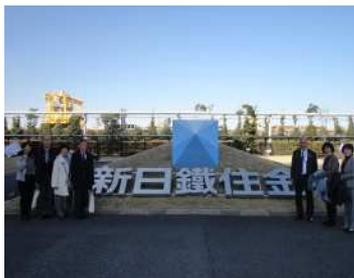
練馬区容器包装プラスチック事業について

平成 19 年 10 月から資源化事業として、区内の一部でモデル事業として開始し、平成 20 年 10 月から区内全域で週一回集積所の回収を開始。

平成 27 年度の回収量は 5,166 t、一日あたりの回収量は 16～17 t です。回収した容器包装プラスチックの中間処理として、容プラ以外の可燃物、不燃物を手選別で取り除いた後、圧縮、梱包してベール化します。ベールの大きさは縦横高さ 1 メートル、重さ 250 キロとなります。それを再商品化事業者に引き渡します。

23 区内で容器包装プラスチックの回収をしているのは、12 区ありますが、その中でも、練馬区が一番回収量の多い区です。

また、日本容器包装プラスチック協会が毎年行っている「プラスチック製容器包装のベール品質検査」では、27 年度、28 年度とも最も高い「A 評価」を受けています。



（君津製鐵所本館横にて）

新日鐵住金(株)君津製鐵所は、敷地面積が千代田区とほぼ同じで、東京ドーム 220 個分に相当します。敷地内を走る貨物線路は山手線の約 2 周分の長さであり、年間 4,600 t 以上の鉄の生産をしています。工場見学には年間 4 万人が訪れます。

## 5 見学行程

現地に到着後、本館にて、DVDによる説明を受けてから工場の見学をしました。

最初に、ベール保管棟に行くと、ちょうど練馬区からきたベールが積まれていました。28年度の君津製鐵所への搬入量は1か月あたり約170t～200tになります。

今回の見学会ではコークスが投入され、鉄の素となる銑鉄を造り出している「世界一大きな高炉」の前で記念撮影をした後、実際に真っ赤になった厚さ24cmの鉄が、およそ700mのラインを流れる間に1.2mm～25mmほどの厚さになり、ロール状に巻かれていく製造工程も見ることができました。



(説明を聞いている様子)



(練馬区が引き渡したベールはとてもきれいでした)

## 6 再商品化の行程

保管棟に一時保管された後、プラスチックリサイクル施設で破碎され減容成型し造粒物となります。造粒物は長い管を通して、コークス炉に運ばれます。そして、石炭と混合して投入され、無酸素状態で、1200度で加熱、分解されます。

40%が化学原料となる炭化水素油、20%が鉄鉱石の還元剤となるコークス、残りの40%が製鐵所内の発電所等で利用されるコークス炉ガスとなり、全量が再商品化されます。



(造粒物)

## 7 主な感想・質問

容プラは鉄を造るうえでの還元材にしか使われていないのか不明だったが、他にも再商品化されていることがよく理解できた。

以前来たときは、ベールを解体し手選別していたが、今は自治体できれいに選別されているので、工場内ではやらなくなったことがわかった。

製品になったロール状の鉄の最大幅はどれくらいか。(最大2180mm)



(第4高炉の前で)



(展示コーナーにて)